



芝山小だより



6月号
清瀬市立芝山小学校

校長 榎並 みな子

集団生活を通して

校長 榎並 みな子

唐突ですが、私には1歳9ヶ月になる孫がおり、週末になると我が家に遊びにきます。もちろん母親が連れて来るのですが、1週間会わないだけで、出来ることが増えていることに、見守っている大人たちは、笑みを浮かべ、幸せを感じています。ただ、最近気になることがあります。自我が芽生えつつあり、やりたいこと、欲しいものに対する執着によるのですが、「泣く」という行為でなんとか手に入れようとする場合があります。「泣けば手に入る」「泣けば言うことを聞いてもらえる」。周りの大人は、聞いてあげればかわいい笑顔がまた見られますし、悲しい思いをさせずにすむので、「つい甘やかしてしまう。」ということになります。

果たしてそれでいいのでしょうか？

これでは、ただただわがままな子を世に出してしまうことになりかねません。どこかのお店で欲しいおもちゃを前に、大声で泣き叫んだり、地団駄踏んだり、寝転がったりする小さな子の姿を目にすることがありますが、いずれそのような姿を身近で見ることは回避したいものです。

子供と関わる大人としては、「ダメなことはダメ」をきちんと教えないといけません。このことに限らず、小さな頃の躾はとても大切だと感じさせられます。

さて、子供たちは、幼稚園や保育園、そして小学校という社会で人との関わりやルールを守って生活することを学びます。多くの人と一緒に生活するわけですから、自分の思いどおりにならないこともあります。集団生活を通して、わがままをせずに我慢したり、折り合いをつけたりする力を付けていけるよう、教職員全員が子供たちの学習はもちろんですが、社会性が身に付くよう引き続き、様々な教育活動に取り組んでいきます。

5月26日(月)・27日(火)には、6年生が日光修学旅行に出かけました。家族と離れて過ごした子供たちは、仲間と過ごすこの2日間をとっても有意義に過ごしました。時間を意識して行動したこと、ハイキングで疲れた時には互いに励まし合って歩いたこと、世界遺産である日光東照宮で本物を目の前にして感動したこと、キャンプファイヤーでは歌って踊って全力で楽しんだこと等、様々な経験を通して仲間との絆を確かめることができたことと思います。

また、子供たちは、宿泊行事を通して、楽しい思い出を作ることはもちろんですが、学校でのふだんの生活とは少し違う「ルールを守ること」「我慢すること」「折り合いを付けること」など、多くを学び成長した姿で帰ってきました。これからも芝小のリーダーとしての活躍が楽しみです。